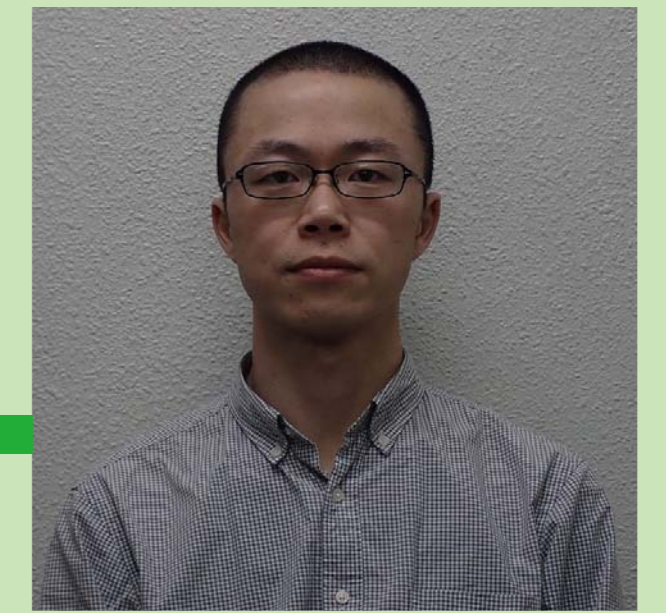


# 海浜植物ウンランの海流散布の可能性

自然・環境再生研究部 生物多様性保全研究グループ

黒田有寿茂



植物の果実や種子が海流・潮流など海水の流れによって運ばれることを海流散布とよびます。砂浜や砂丘に生えている海浜植物は海流散布をするものが多いのですが、全ての海浜植物がその能力をもっているわけではありません。海流散布の可能性を調べていくことは、それぞれの種の生物地理や系統地理について理解を深めるだけでなく、保全に向けどのような点に注意すればよいか検討していく上でも重要です。本研究では、関東南部以西の太平洋沿岸や瀬戸内海沿岸で減少・絶滅が進行している海浜植物ウンラン（オオバコ科ウンラン属）の海流散布の可能性を評価するために、NaCl 水溶液を用い、種子の浮遊能力と接触後の発芽・出芽能力を調べました。その結果、ウンラン種子は海水への浮遊能力と接触後の発芽・出芽能力を備えており、本種は長期間の海流散布が可能な種であることがわかりました。



海岸砂地に生育するウンラン

地上茎は這い、斜上する。葉は肉質。砂中に長く根を伸ばす。砂の頻繁な移動や貧栄養によって特徴づけられる砂浜・砂丘環境に適応的な形態といえる。



ウンランの花

ウンランは「海蘭」で、海辺に生えるランという意味であるが、ラン科の植物ではない。その花のサイズ・形態から、本種は虫媒の植物と考えられる。



ウンランの果実と種子

果実は蒴果。裂開した果皮の間から黒色に熟した種子が見える。種子は秋季に散布された直後は休眠状態にあり、冬季の低温湿潤によって休眠解除される。



ウンランの種子

種子は長さ約 2 mm で、腎臓形をしているものが多い。海水に長期間浮き、接触後も発芽能力を失わないことから、海流散布能力をもつと考えられる。